

埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

平成28年度 埼玉県医師会 精度管理試料梱包・発送作業に参加して

第28回埼玉県医師会精度管理調査の試料梱包・発送作業が9月10日（土）に行われました。

早めに会場入りしましたが、すでに埼臨技理事や研究班員が大勢集まっており、試料のラベル貼りなど準備に取り掛かられていました。輸血部門では、前日までに試料の作製や分注、ラベル貼りを研究班員で済ませていましたので、当日は試料容器の蓋の緩みや分注作業によるラベルの汚れなどを再確認し、梱包作業開始を待ちました。

定刻になり、津田会長の挨拶、山口精度管理委員長から梱包作業の説明を受け、各部門の準備が整ったところで作業開始となりました。作業内容は、コの字に配置されたテーブルに各研究班員が座り、施設名と参加試料を表示したシールが貼られた箱に、流れ作業で試料を詰めていきます。施設ごとに参加試料が異なるため、箱に貼られたシールの表示内容と事前に配布された参加試料リストを確認し、慎重に1つずつ試料を箱詰めしました。それでも、最終確認担当者の厳しいチェックで、試料の詰め忘れがみつきり、改めて複数によるチェック体制の重要性を感じました。理事と各研究班員の素晴らしい連携プレーにより梱包作業は順調に進み、箱詰めした試料と手引書、案内書などを宅配便の袋に同封して作業は終了となりました。今年は約240施設が参加しており、床一面に置かれた宅配便の袋の数に圧倒されました。

埼玉県医師会精度管理には自施設で毎年参加していますが、試料を測定し、評価を確認する程度の意識しかありませんでした。今回事業に参加して、試料が各施設に届くまでに、多くの方々のご協力があることを実感し、精度管理調査に対して意識が少し変わったように思えます。

最後になりましたが、精度管理試料梱包・発送作業に携わった理事や各研究班員、その他関係者の皆様、本当にお疲れ様でした。

(文責：野呂光恵)



第45回 埼玉県医学検査学会情報



－ 未来の私達のために －

副実行委員長 武関 雄二
自治医科大学附属さいたま医療センター

～ 利益相反（COI）の開示について ～

- 埼玉県医学検査学会の発表は、昨年から利益相反の開示が義務づけられています。
開示基準その他の詳細については、JAMTのホームページ「日臨技とは」から、プルダウンメニュー中の定款・諸規定を開いて確認してください。
- 利益相反の自己申告は、発表スライドの1枚目の最下段に下記の申告内容を記載してください。
 - 利益相反無しの場合・・・利益相反の有無：無
※この演題の発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません
 - 利益相反有りの場合・・・利益相反の有無：有
※この演題の発表に関し、開示すべきCOI関係にある企業名
〇〇〇〇株式会社、(株)□□□□
- 記入例

〇〇〇の検討について
△△病院 臨床検査部
埼玉 県一

利益相反の有無：無

※この演題の発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません

～ 発表スライドについて ～

発表はパソコンを使用した口演形式で行いますので、以下の注意事項にしたがって発表用スライドを作成し、送付してください。

- 口演スライドの作成方法
 - OSはMicrosoft Windows7、アプリケーションソフトはMicrosoft Power Point2003/2007/2010を使用、ページ設定は「35mmスライド」に設定し作成してください。
Mac OSは使用できませんのでご注意ください。
 - 動画使用の注意
 - 標準のWindows Media Playerで動作する形式（MPEG1、MPEG2、MPEG4/AVC（H.264）、DivX、WMV）をご使用ください。なお、符号化や特殊な圧縮（コーデック）をしたものは使用しないでください。また、音声の使用はできません。
解像度は、720×180ピクセル程度、デジタルハイビジョンやフルハイビジョンは避けてください。
 - 動画再生が不安な場合は、複数の形式を使用してください。
- 図表作成の注意
 - 図表を作成する場合は、遠くからでもはっきりみえる簡潔なものにしてください。
 - 注意して見てほしい箇所は目立つように工夫してください。
 - グラフのX軸・Y軸の項目や単位を忘れないで記入してください。

4) スライドに使用する文字は、特殊なフォントは使用せずMicrosoft Windows7に標準搭載されているフォントのご使用をお奨めします。

5) 一般演題の発表時間は、1 演題につき発表 6 分、質疑応答 3 分の計 9 分です。コマーシャル演題は、発表・質疑応答合わせて10分です。

6) スライド枚数・原則

① 基本はタイトル・目的・方法・結果・考察・結語で結び、スライドは時間内に終了できる枚数にまとめてください。初めて発表される方は、10枚程度をお奨めします。

② 症例報告は方法・結果の代わりに症例・現病歴・経過・所見でまとめることをお奨めします。

2. 記録媒体

1) CD-R (CD-RW不可) を使用してください。CD-Rが使用できない場合は、USBメモリーでも可とします。CD-Rは返却いたしません。実行委員会にて責任を持って処分いたします。USBメモリーは発表終了後、総合受付にて返却いたします。実務軽減のため、できる限りCD-Rのご送付をお願いいたします。

2) 1 演題につき 1 枚の記録媒体で提出してください。

3) 記録媒体に「分野・演題番号・演題名・氏名」を記入してください。但しCD-Rは表面に記入し、USBメモリーは担当者が確認できるように工夫して提出してください。ファイル名は「分野・演題番号・氏名」で統一してください。なお、演題番号は抄録をご参照ください。

4) 当日、予備記録媒体を持参してください。

3. 発表用ファイル送付期日

2016年11月11日(金)～11月18日(金)必着

※発表当日になってのスライド内容の変更はできませんので注意してください。

4. 送付先：〒349-1105 埼玉県久喜市小右衛門714-6

埼玉県済生会栗橋病院 臨床検査科

第45回埼玉県医学検査学会 実行委員長 猪浦一人 宛

TEL : 0480-52-3611 (内線86320) FAX : 0480-52-0301

E-Mail : kensa@saikuri.org

5. 発表原稿

発表用スライドが出来上がったら、発表原稿を作成しましょう。そして、何度も声を出して読み返しましょう。また、職場の上司・先輩方に発表時のアドバイスをいただきましょう。特に、初めて発表する方は“間違ったらどうしよう”と緊張や不安が大きく、時間内にうまく伝えられない場合があります。しかし、発表の持ち時間は一生のうちの9分間です。前日はイメージトレーニングを行い、うまく行くと自己暗示して臨めば気持ちも落ち着きます。あなたが主役ですから自信をもって発表してください。

6. スライド操作

スライドの操作はパソコンの↓またはEnterキーを押して演者が行ないます。詳しくは会場責任者に確認してください。



訃報

かねてより病氣療養中の元埼臨技会長・蒲池正次様が9月28日にご逝去されました。

葬儀は近親者のみにて執り行われました。蒲池正次様のご冥福をお祈りいたします。

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ 深在性真菌症診断のための検査法 ～最近の話題も含めて～

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：平成28年 8 月26日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：専門教科－20点

講 師：大野 秀明（埼玉医科大学総合医療センター）

参加人数：会員60名 賛助会員 3 名

出席した研究班班員：

公衆衛生：穴原賢治 富井貴之 榊原外江 鈴木勤 石井孟 菊地孝司

微生物：渡辺典之 小西光政 酒井利育 森圭介 小棚雅寛 砂押克彦 永野栄子

研修内容・感想など

真菌症は、感染の広がり方から、皮膚表在性真菌症、深部臓器（深在性）真菌症、真菌血症に分類される。今回は、最近発生頻度が増えている深在性真菌症についてご講演をいただいた。深在性真菌症は移植手術の術後や、ステロイドを始めとした免疫抑制薬を投与されて免疫力が低下すると、感染するリスクが高まる。ただし、健常者にも感染を起こす真菌（クリプトコックス症）も存在する。

真菌感染症における微生物学的検査として確定診断法（鏡検・培養・同定）と補助診断法（血清学的検査： β -D-glucanなど・遺伝子検査）があり、診療においては薬剤感受性検査の結果が重要となる。培養検査は薬剤感受性検査を行うために必須の検査であるが、検査材料の保存方法（温度）、検体の前処理法や培養温度によって結果が左右されるため、注意が必要である。ただし、輸入真菌症（コクシジオイデスなど）を疑う場合は非常に危険なため、不用意に培養は行わない。主治医に患者情報を確認することも大事である。最後に、深在性真菌症が増えている要因として、医療技術の向上などによるcompromised host（易感染宿主）の増加が考えられるとのことがあった。高齢化を迎える中、分離菌の動向に注視し、アウトブレイクを未然に防ぐ努力が必要であると感じた。

（文責：富井貴之）

テーマ 壊死性軟部組織感染症について ～救命現場の実際～

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：平成28年 9 月16日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：専門教科－20点

講 師：大井 秀則（埼玉医科大学総合医療センター）

参加人数：会員27名

出席した研究班班員：菊地孝司 穴原賢治 榊原外江 鈴木勤 石井孟 阿保一茂

研修内容・感想など

大井秀則氏を講師に招き壊死性軟部組織感染症を中心に救急医療に関する講演をしていただいた。壊死性軟部組織感染症とは、通常よく壊死性筋膜炎と言われる劇症型の感染症を含む表皮から筋肉までの軟部組織に起こる感染症を言う。原因微生物により大きくType I～IIIに分類される。Type Iは*Clostridium perfringens*によるものが約80%を占める。外傷を伴う場合が多いが、中には伴わない場合もあり、皮下気腫や悪臭が特徴である。Type IIはA群溶連菌によるもので、いわゆる劇症型溶連菌感染症である。壊死、ショック、多臓器不全等を起こし、高い確率で壊死性軟部組織感染症を合併している。とにかく進行が速いことが特徴で、四肢等の切断をしてもさらに病変が広がる場合もあるという。Type IIIは*Vibrio vulnificus*によるもので、稀な疾患であるがカキ等の貝類の喫食、海水等から感染し重篤化することが多い。大井氏は症例に際し、すぐにグラム染色を実施し、抗菌薬の選択を迅速に行うという。そのほか呼吸管理、デブリードマン等の処置を多職種で協力し速やかに行う必要があり、壊死性軟部組織感染症は救

命センターでの治療が不可欠であるとの事だった。第一線の現場で活躍されている医師の講演であり実際の症例の写真も多く紹介され、生々しい現場の様子が感じ取れる有意義な研修会であった。
(文責：阿保一茂)

テーマ 大先輩から学ぼう 病原微生物検出のポイント!!

主催 微生物検査研究班

実施日時：平成28年9月16日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科ー20点

講師：五十里 博美（越谷市立病院）

参加人数：会員57名 賛助会員6名

出席した研究班班員：砂押克彦 小西光政 牧俊一 酒井利育 森圭介 小棚雅寛 永野栄子

研修内容・感想など

今回の研修会では、「病原微生物検出のポイント」というテーマで五十里氏にご講演いただいた。はじめに細菌検査室の役割について、細菌検査室の目的は起因菌を探して感染症治療の指標になること。迅速性と正確性が重要かつ臨床的に意義のある明瞭な結果を報告すること。そのためには、グラム染色の読影力、適切な培地選択と適切な培養条件、適切な釣菌と適正な薬剤感受性検査を行う。また、培地の知識、病原細菌・常在菌の知識以外にもコミュニケーション力、好奇心、諦めない心がより良い細菌検査室のために必要と話されていた。次にグラム染色では、ある程度菌種の推定が可能であるが間違えやすい菌についてや塗抹検査の報告の必須事項や限界について、同定検査では、従来からのTSI・SC・SIM・LIMの試験管培地の接種方法や判定、同定あるいは想定される菌について説明された。同定キットや自動機器、質量分析でも鑑別の難しい菌種もあるので従来からの同定検査の手技を身に付けることはとても重要である。嫌気性菌は、グラム染色で特有の形態をしている菌種もあり、カタラーゼ試験やスポットインドール、UV照射下の発光の色を見る簡単な検査で菌種を推定することができる。*Fusobacterium nucleatum*など、癌との関連が示唆されている菌種があり、臨床背景や臨床情報を把握し、臨床側に説明できる知識が必要である。

今回教えていただいた知識・経験・匠の技を習得し、次世代へ引き継いでいきたいと思った。

(文責：永野栄子)

テーマ ステップアップ研修会 ～呼吸と呼吸機能検査の理解を深める～

主催 生理検査研究班

実施日時：平成28年9月17日 14時30分～17時30分

会場：川口市立医療センター 講堂 点数：専門教科ー20点

講師1：呼気NO濃度の測定と臨床への有用性

講師：近藤 奈央（太陽日酸株式会社）

講師2：血液ガス読解のための基礎知識

講師：家城 正和（埼玉県立がんセンター）

講師3：呼吸機能検査の進め方と確認ポイント

～ ライブデモと事例から、VC、FVC、FRC、DLco、CVを理解する ～

講師：宮澤 義（自治医科大学附属病院）

湯舟 恵子（自治医科大学附属病院）

参加人数：会員38名

出席した研究班班員：早川勇樹 仲野浩 瀧沢義教 家城正和 田名見里恵 丸山陽介

櫻井友加里 横尾愛

研修内容・感想など

講演1は近藤氏から「呼気NO濃度の測定と臨床への有用性」と題し、ポータブル呼気NO濃度測定器『NO breath』の紹介をしていただいた。『NO breath』は好酸球性炎（喘息など）の患者から呼出される呼気一酸化窒素濃度（FeNO）をモニタリングできる装置である。呼気NOは

気道炎症の指標となるため、喘息なのか否かの判定材料の一つになる。また、継続的に測定することで、治療の経過を追うことにも有用とされている。しかし、的中率は100%ではなく、原因を特定することもできないため、従来通り各検査を行う必要があるとお話された。本装置は乾電池で作動可能な小型機器であるため、簡便に測定できる。今後、保険適用になったことで普及が期待される装置である。

講演2は家城氏に「血液ガス読解のための基礎知識」について講演していただいた。血液ガス分析の結果から把握すべき「肺胞換気」「酸塩基平衡」「肺胞でのガス交換」の3つの機能について解説があり、臨床的に多いとされる混合性酸塩基平衡障害の見方についても説明していただいた。最後に講演内容をふまえ、どこに異常が見られるのか、症例をもとにパターンに当てはめ説明していただいた。血液ガスは携わる機会が多い検査のため結果を考える良い機会となった。

講演3は宮澤、湯舟両氏に「呼吸機能検査の進め方と確認ポイント」について講演していただいた。前半はVC、FVC、FRC、DLco、CVの測定原理と検査手技の確認、結果の妥当性の確認ポイントについて解説していただいた。後半は測定機器を使用してライブデモを行っていただき、測定上の注意点や姿勢、結果の確認ポイントについて具体的に説明していただいた。特にDLcoとDLco'の差を手技のチェックに使う点は印象に残った。検査を行う上で患者情報やスパイログラム等、総合的に結果の妥当性を判断していくことが重要とのことであった。今回は連休初日ということもあり受講者は思ったより少なかったが、血液ガス分析結果や呼吸機能検査の妥当性について再考できる良い内容であった。

(文責：家城正和、櫻井友加里)

埼臨技ひろば

第1回 埼臨技有志の会（あじさいの会） 開催のお知らせ

「埼臨技有志の会」（あじさいの会）は、平日の研修会への参加が難しい方たちのために、休日を利用して、研修会と食事等を組み合わせた有意義かつ楽しい時間を共有するために、発足された新しい試みの会です。

第1回目を下記の日程にて行います。皆様、どうぞお気軽ご参加くださ～い！！

日 時：平成28年11月20日（日）10時～（9時30分より受付開始）

集合場所：貸会議室6F（大宮駅東口徒歩1分 ラクーン前、1階がJTB）

内 容：① 研修：10時～11時40分くらいまで

テーマ：職場の雰囲気をよくしたい！

＜ベストコミュニケーション&勇気づけ＞

・コミュニケーション関連が専門のプロのセミナー講師の方が、講義やグループワークを通して、楽しくわかりやすく、またためになることを教えてください！

・日ごろ思っていることや、言いたいことをどしどし吐き出してください！

② 昼食 12時～13時30分

場所：サルバトーレクオモ&パール大宮（大宮駅西口そごうのすぐ裏）

90分の貸し切り、飲み放題付きです！

会 費：5,000円

申し込み先：ajisainokai_sairingi@yahoo.co.jp

（ajisainokaiとsairingiの間に_が入っています）

連 絡 先：小島徳子 白岡中央総合病院 検査技術科

0480-93-0661 内線366

**平成28年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第7回 理事会議事録**

日 時：平成28年9月8日(木) 19時00分より
場 所：埼臨技事務所 さいたま市浦和区領家7-14-7
議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事)津田 神山 島村 岡田 矢作
小山 奈良 長岡 猪浦 石井
松岡 小島 濱本 藤井 長澤
神嶋 伊藤 濱田 山口 阿部
(監事)遠藤 細谷

欠 席：(理事)武関 鳥山

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は20名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告 (平成28年8月10日～平成28年9月7日)

8月10日(水)平成28年度公益社団法人第6回理事会：

津田、神山、島村、岡田、矢作、
小山、奈良、猪浦、長岡、石井、
松岡、小島、濱本、藤井、長澤、
神嶋、伊藤、濱田、鳥山、武関、
阿部、細谷

8月10日(水)第16回わらび健康まつり第2回実行委員会：藤井

8月19日(金)第45回埼玉県医学検査学会第12回実行委員会：

猪浦、長岡、長澤、武関

9月3日(土)4日(日)第65回日本医学検査学会：
津田、岡田、濱本

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1)糖尿病無料相談会人員派遣のお願いが届いた。

2)9月2日、故人山本芳尚氏(獨協医科大学越谷病院)に対し慶弔規程に基づき対応した。

2 総務部

1)「埼臨技だより」第448号、9月15日発行予定

3 事業部

1)8月10日、第16回わらび健康まつり第2回実行委員会に出席した。

2)9月29日、第11回深谷市福祉健康まつり第2回実行委員会が開催予定。

3)9月5日、イベントスタッフ募集の案内をホームページに掲載した。

4)「検査と健康」展の後援を埼玉県医師会、さいたま市、埼玉県看護協会、浦和医師会に依頼する予定。

4 学術部

1)特になし。

5 精度保証部

1)特になし。

6 会計部

1)平成28年度正会員費18名分90,000円、入会金17名分17,000円、合計107,000円の入金があった。

2)生涯教育推進研修会助成金50,000円×2研修会、合計100,000円の入金があった。

3)石井印刷へ、だより第447号代115,571、封筒角2号代54,000円、合計169,571円を支払った。

7 精度管理委員会

1)9月10日、平成28年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査試料梱包作業予定。

8 一都八県会長会議

1)特になし。

9 日臨技関甲信支部

1)特になし。

10 日臨技

1)特になし。

11 第45回埼玉県医学検査学会

1)8月19日、第12回実行委員会を開催した。

2)会誌特集号の作業工程について

3)学会企画について

4)「優秀発表賞」・「学会長特別賞」の授与について

12 第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会

1)9月21日、第1回実行委員会開催予定

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

1)会員動向(平成28年度分)

平成28年9月1日現在

会員数 2,732名

(新入会員214名[平成27年度会員数2,587名])

賛助会員 80社[平成27年度 79社]

承認された。

2 総務部

1)特になし。

3 事業部

1)平成28年度全国「検査と健康展」企画・予算案について

承認された。

4 学術部

1)特になし。

5 精度保証部

1)特になし。

6 会計部

1)研究班向け「通帳借用願い」の書式作成について

承認された。

7 精度管理委員会

1)特になし。

8 第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会

- 1) 実行委員の委嘱状作成について承認された。

IV. 議題

特になし。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

求人案内

○入間ハート病院

採用条件：正職員 臨時職員（パート）
連絡先：04-2935-5097
医療法人永仁会 事務室 大熊

○所沢明生病院

採用条件：正職員
連絡先：04-2928-9110 内線140・141
総務課 三次

○一般社団法人 浦和医師会メディカルセンター

採用条件：正職員 産休代用嘱託職員
連絡先：048-824-1629 検査部 大倉

○医療法人五麟会 まちだ訪問クリニック

採用条件：臨時職員（パート）
連絡先：048-424-7301 和田孝司

○一般社団法人 大宮医師会メディカルセンター

採用条件：非常勤職員
連絡先：048-665-6559
検査課 菊池、廣田

○医療法人社団 俊睿会 南埼玉病院

採用条件：非常勤職員
連絡先：048-965-1151 総務課 宮田

○埼玉県立小児医療センター

採用条件：非常勤職員
連絡先：048-758-1811 内線1814
事務局/総務職員担当 星野、岸

○医療法人 大宮シティクリニック

採用条件：正職員 臨時職員（パート）
連絡先：048-645-1256 本部長 星野

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

あ と が き

9/10～11に開催されたリレー・フォー・ライフ・ジャパン2016さいたまに参加しました。がんと闘っている患者さんを支援するボランティアイベントです。24時間、交代でひたすら歩くことがメインとなりますが、今回はルミナリエバッグというメッセージなどが書かれた白い紙袋を会場に設置するお手伝いもしました。書かれている素敵な絵を見ては和み、空から見守ってくれているであろうお父さんへの近況報告のメッセージにはウルウルしながらの設置作業でした。夜には紙袋の中のLEDライトで会場が温かく彩られます。

普段は忙しさに追われ、仕事として患者さんに向き合いがちですが、今一度、患者さんに寄り添う心について考えさせられた一日でした。患者さんと話す時には、今よりやさしく笑顔で、というちょっとした心がけでもいいですね。

いろいろな病院の方々とざくばらんに交流できるのも（何しろ皆さんTシャツに短パンといった出で立ちです）このイベントの楽しいポイントです。夜間部隊は、一段と結束力が高まるようです。来年は皆さんご一緒しませんか？

（石井 記）

